9/17-18

総務常任委員会・産業建設常任委員会

合同行政視察調査

本町における福祉及び移住定住政策の充実とぴっぷスキー場のさらなる振興に向けて、南幌町の「社会福祉協議会」や札幌市の「ばんけいスキー場」など5か所を視察・調査しました。

南幌町社会福祉協議会の事業と運営状況を調査

南幌町社会福祉協議会を視察し、受託事業及び自主事業について、法人の運営状況及び今後の事業展開についてお話を伺いました。

南幌町社会福祉協議会では、一般介護予防事業として健康マージャン事業やふまねっと事業、介護支援ボランティアポイント事業を行っているほか、包括的支援事業としてゴミ出し支援事業、任意事業として配食サービス事業、新規事業として町民から食料品の寄付を受け、生活に困窮している方へ提供するフードパンドリー事業も行っていました。また、生活支援コーディネーターによる地域ニーズの把握やネットワークの構築も行っていました。

社会福祉協議会の多くは運営が厳しく、積立金を取り崩すほか、寄付金や補助金で運営されていますが、南幌町社会福祉協議会の職員体制は、従来から町職員1名が出向となっていましたが、令和2年度から町職員2名の出向となったことから人件費が軽減されたため、運営的には安定してきたとのことです。

今後の課題としてボランティア等の人材確保、保健福祉センター「あいくる」までの移動手段の再検討、地域におけるサロン事業などがあげられ、町が今年度改定している地域福祉計画において、「介護予防における新たな事業について、町担当部局と協議し「あいくる」を拠点とした高齢者の憩いの場づくりに努めたい」と話されていました。

比布町においても地域福祉の課題は多様に存在しますが、社会福祉協議会には町担当部局と連携のもと、地域福祉向上の中心となった事業の展開を期待いたします。

南幌町社会福祉協議会

昭和32年8月「南幌町社会福祉協議会」が設立。全面的に規約を改正し、会長は一般住民から選出し、自主運営を図ることとなった。

その後、昭和57年4月「社会福祉法人　南幌町社会福祉協議会」を設立し、現在に至っている。

子ども室内遊戯施設「はれっぱ」

子どもから大人まで、幅広い年代の方が楽しめる「はれっぱ」は、有料の遊戯エリア「きゃべっちパーク」（写真：左）と無料の休憩エリア「MINA すまいるゾーン」（写真：右）の２つのエリアを持つ交流拠点施設。

開館時間：午前10時～午後６時
休館日：毎月第３月曜日
（祝日の場合はその翌日）

南幌町の移住定住政策と子育て支援策を調査

全道一、全国一の日本人人口の増加数、増加率は何故なのか、どこに魅力があるのか、南幌町を視察先に選びました。

最近の人口増は、「人口減少打開に向けた子育て環境の整備」「移住定住施策のＰＲ」を実施することで、令和４年７月から前年同月比の人口が増加に転じています。

人口増加の背景には、子育て環境の整備や移住定住施策の他に、北広島市のエスコンフィールドの立地や、新たな高規格道路の整備により交通の利便性が向上し、人の流れを取り込む見込みのもとに施策が展開できたことも要因と考えられています。

南幌町の移住定住施策の代表的な事業としては、高校生まで医療費無料、最大月１万円の高校通学費補助、学校給食の主食代の全額補助、農薬を半減した米を中学校卒業まで年間10kg支給する子育て支援米などの制度があります。

また、移住後の子育て環境充実のための屋内子ども遊戯施設「はれっぱ」の建設も行われ、移住にあたっては最大２００万円の住宅建設費助成と土地代の割引などの制度も実施しています。

比布町においても旭川市に隣接している地理的条件を生かし、住宅団地の造成から始まり、時代の流れに沿った多くの移住定住施策を実施しています。

今後は新町公住跡地に宅地分譲を計画していますが、人口増加に転ずるよう、一層の移住・定住対策施策に取り組み、みんなが笑顔の町をつくることに議会としても力を合わせていきたいと思います。

お忙しい中、熱心に取り組みや課題をご説明いただいた南幌町議会様、南幌町社会福祉協議会様、南幌町役場様に感謝を申し上げます。

総務常任委員長　遠藤（えんどう）　ハル子（はるこ）

移住体験住宅２棟（２ＬＤＫ）

【南幌町の概要】

昭和37年５月１日に「幌向村」から「南幌町」と呼び名が改められ、村から町となった。

札幌市から25km圏内の近さにあり、この近さを最大限に生かし、道路網の整備や生活・文化・教育等快適な生活環境を供給する住宅供給都市としての開発が進めれら、豊かな自然に恵まれた快適な生活都市として南幌町へ多くの永住希望者が転入している。

◆面積　81.36㎢
◆人口　7,932人（R6.12.1現在）